

かぜのきざし

2016 JULY

# 風の萌

特定非営利活動法人(NPO)  
在宅ケアを支える診療所・  
市民全国ネットワーク機関紙

第034号

2016年7月1日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

## リレー寄稿

リレー寄稿の最終回です。今回は、石田 一美理事よりいただきました。苛原会長を始め、これまでに寄稿していただきました方々におかれましては、ご協力ありがとうございました。

## 熊本地震からの避難所についての提言

NPO在宅ケアを支える診療所・全国ネットワーク事務局次長 石田 一美

4月14日 熊本地震が発生しました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、全ての皆様が早く元の生活に戻れますことをお祈り申し上げます。

ところで、今回の報道の中で、私が気になったことがあります。それは、**福祉避難所**がほとんど機能しなかったということです。

実は、私共も大村市と協定を結んでいます。「福祉介護避難所」として、老人保健施設と通所介護を併設する有料老人ホーム、また、避難所ではなく介護職員を避難所に派遣する事業所として通所リハビリを有する秋桜醫院が協定を結びました。災害発生時は、それぞれが市民の皆様の役に立てたらと考えています。それが、今回ほとんど機能しなかったとは、どうしてなのでしょう？

福祉避難所は、体育館や公民館等今までの避難所では、生活に支障をきたす方々のための避難所です。バリアフリーの建物と、介護職員がいる介護保険サービス事業所を中心に指定されています。

報道を見ていくと、機能しなかった一番の原因は、福祉避難所の介護職員自身も被災者で、自らの家族・事業所を守るのが精いっぱい、他の被災者を受け入れる余裕がないということのようです。では、どうしたら福祉避難所がうまく機能するようになるのでしょうか。

私が副会長を務める長崎県老人保健施設協会では、全体を3つのブロックに分けて活動をしています。そこで災害発生時は、被災したブロックの施設に対して、被災を免れたブロックから職員等の応援をする予定です。県全域が被

災するということはまずないと思いますし、同じ介護老人保健施設職員同士なら似たような建物ですし、職員の動きも分かり易いと思います。また、職員やその家族にとっても、近くの馴染みのある施設の応援に行くのは、遠くに派遣されるより安心できるのではないでしょうか。

介護老人福祉施設やグループホームでも県単位の組織を活用すれば、同様のしくみがすぐできると思います。

また、今回赤ちゃんや、障がいを持った方々と一緒のご家族も通常の避難所では、生活しにくいという報道も耳にしました。

通所リハビリ事業所を有する秋桜醫院は、介護職員を派遣する事業所として協定を結びましたが、建物はバリアフリーで、診療スペースの他に、専用のリハビリ室やいくつかの部屋も持っています。介護

職員は、他の避難所に派遣予定ですが、赤ちゃんのいるご家族にとっては、授乳室などでも確保できゆつくりできるのではないのでしょうか。

障がいを持った方々もご家族と一緒に避難していただければ、通常の避難所より生活しやすいと思います。

**通所リハビリ事業所と類似の通所介護事業所なども同様の避難所として活用できるのではないのでしょうか。**

また、私共は、全国老人保健施設大会での中越地震を経験した施設の発表を聞いたのを契機に、平成17年からグループ全体での災害対策を考えてきました。今や日本のどこにいても災害の危険があります。災害に遭う前に想定して、できる準備を始めることが大切です。全国の集いもその契機になれないでしょうか。



# 実践交流会演題募集カテゴリー要旨の紹介

既に皆様のお手元には演題募集要項が届いていると思いますが、今年度のカテゴリー要旨については鹿児島島からも座長の意見も頂いております。今後も、座長間での交流を発展させて頂きたいと考えております。

## 1. 在宅生活の継続

座長 石田 一美 秋櫻醫院  
山崎 正博 介護老人保健施設アメニティ国分

### キーワード

- ✓在宅療養
- ✓地域包括ケア

### 趣旨

住み慣れた地域で暮らし続ける。私達は自宅で暮らしたいと希望する方々の望みをかなえるべく、医療・介護の視点で支えてきました。また医療は生活の上に成り立つことを痛感し、更にその生活の場としての「住まい」の必要性を実感し、広く多職種の方々と連携・協働してきました。今、日本中どこでも「地域包括ケア」が推進されていますが、素朴に在宅生活の継続のための活動をしてきました。どうぞ皆さまのところでの実践報告をお願いします。その知見を皆で共有したいと思います。

## 2. 訪問サービス&通所サービス

座長 岡崎和佳子 有限会社 菜の花  
新 智哉 介護老人保健施設 ラポール吉井

### キーワード

- ✓「在宅生活の継続」
- ✓「訪問と通所サービスの連携」
- ✓「法改正での軽度者へのサービスの実践や課題」
- ✓「介護保険サービスの卒業・受け手から担い手へ」
- ✓「地域包括ケアの取り組み」

### 趣旨

介護が必要となった時、在宅で生活を継続するためには、「訪問サービス」「通所サービス」は最も必要とされるサービスです。介護保険制度が始まって以来、現場のケアでは試行錯誤を重ねながらも、様々な工夫がされて来ました。このカテゴリーでは、現場の実践の中から得られたもの、成功事例や困難事例、悩みや課題等を報告していただきたいと思います。「介護保険制度の変遷」に振り回されがちではありますが、ケアの本質について語り合い、全国のケア職と共有し今後の援助のヒントが得られたらと思います。

みなさまのエントリーをお待ちしています！現場の仲間が元気になる事を願って。

## 3. 緩和ケアと看取り

座長 中嶋 啓子 医療法人啓友会  
徳永 正義 社会福祉法人山陵会 理事長

### キーワード

- ✓在宅看取り緩和ケアグループ
- ✓緩和ケアは病気になった時から始まる
- ✓終わりなければすべてよし
- ✓チームネットワーク

### 趣旨

8割以上の人が病院で亡くなる時代といわれていますが、その歴史はたかが50年と半世紀にも満たないのです。それまでは8割の人が自宅で亡くなっています。死は誰にでも訪れる自然現象です。その死をどう迎えるかは誰もが気になる場所ですが、厚労省は医療費の削減として在宅死地域死を進めています。全体的にはがん疾患を除いて在宅死亡率は低下傾向といわれています。

今見取り交流会では1つ目は何が在宅死を進めない要因か考えます。2つ目は病気になった時から緩和ケアを始めることが何よりも重要です。特に高齢者、難病、その他死を近くに見据える方々の緩和ケアの充実がキーと考えます。緩和ケアは苦しみ痛みからの解放ですが、それはその人の最後の短い期間ではあるが、生き方(人生)や生活の仕方にかかわる重要な仕事と考えます。終わり良ければすべてよし。3つ目に言うまでもなく緩和ケアはチーム、多職種協働で進める必要があります。

ホスピス病院では緩和ケアチームが組まれ手厚いケアが行われますが、在宅にもチーム、ネットワーク形成で緩和ケアグループができれば独居の方、困難事例の方の在宅緩和ケアを進められると考えます。皆さんからの「実践報告」と「緩和ケア推進の提案」をお願いします。

## 4. 人材育成・教育

座長 長縄 伸幸 医療法人フェニックス  
大久保義人 みどり明星クリニック

### キーワード

✓ 包括ケアシステムを見据えた人財の配置と育成

### 趣旨

在宅医療・在宅ケアを支える人材教育と新たな役割分担を考える

～あなたのチームは全天候型近代野球、地域特性を生かす近代サッカー?～

「2025年の地域包括ケアシステムの確立」に向け、準緊急的国策として診療報酬改定(2014、2016)および介護報酬改定(2015)を通じて具体的にその実行を迫っています。そして、2年後(2018)の診療報酬・介護報酬の同時改定でほぼその全貌が明示される予定です。

少子・超高齢化社会という国難を乗り越えるため、地域特性を生かし、効率的で良質な街づくり(地域包括ケアシステム)を地域力で構築することが急務です。私どもネットワークの会員はネットワーク創設以前より地域における使命感から多職種や住民を巻き込み各地で独自に地域づくりを行ってきました。その遺伝子は現在でも本会の中核的存在ですが、今こそ新たな視点でその活動を見直し、そのノウハウを会員全員で共有する必要があると考え、昨年より実践交流を図っています。今回の実践交流会のテーマとして表題の如く、「2025に向けた各職種の新たな役割」を論じたいと思います。少子・超高齢化社会は、働き手もいない社会であり、現実的に我々現場でもすでに事業継続に関わる大きな問題になりつつあります。その難問に未来を見据えた取り組みが各地で始まり成果をあげています。時代の大きなうねりの中、組織運営・経営論議に至る広い視野でのご討議をお願いいたします。

なお、今回の鹿児島大会から、大石佳能子・桑原由次・草場鉄周の多彩で有能な3人の理事が担当理事として参加していただく事になりました。大会本部の担当委員の大久保様とともに魅力ある企画を予定していますので、ぜひ多くの方からの実践発表およびご参加を切望いたします。

## 5. 地域で支える認知症ケア

座長 金田 弘子 医療法人社団もりもと  
常見 裕之 認知症の人と家族の会 鹿児島県支部 代表

### キーワード

✓ 基礎理論  
✓ BPSD  
✓ 人材育成

### 趣旨

平成21年より「認知症の重度化予防実践塾」の講師を務めている。実践塾は年に複数回の研修を、ご家族・サービス事業者・地域包括等と一緒に、①ふだんの体調(水分・栄養・排便・活動)を整え、認知力を高めること。それでもBPSDを呈すれば、②人生歴を知りプライドを大切にしたい関わり方で平穏な心理状態を保てるといった基礎理論を講義・演習で学び、毎回、事例の介護実践の宿題を義務づけている。宿題は次回の研修時に振り返り、講師がコメントをすることでより実践に即した研修内容である。

塾生は徐々に「認知症は予防できる!改善できる!」という意識が変わり、専門職だけでなくご家族が、認知症ケアを理解し実践した結果、全国各地で開催している実践塾では8割もの認知症の症状が改善している。また、塾生が次の塾生のスーパーバイザーとして育つなど人材育成も行われている。誰もがよりよく生きる社会の実現を目指し、全国の自治体で広まりつつある。

## 6. 口腔ケアと栄養管理

座長 大川 延也 大川歯科医院  
福原 和人 鹿児島県歯科医師会 理事表

### キーワード

✓ 「在宅で生活復帰」  
✓ 「口から食べること」「お薬飲めますか?」  
✓ 「栄養改善」  
✓ 「摂食・咀嚼・そして嚥下」  
✓ 「食べたらず、便秘改善」

### 趣旨

各地域医師会と行政が中心となり地域包括ケアシステムをH30年3月までに構築をしなければなりません。H27年度の1年間で各地域ではそれぞれの地域特性にあったケアシステムを多職種と緊密な連携をとり、準備が着々とすすみ始めていることでしょう。病院から出された患者さんたちは、何らかの障害をかかえながら在宅で生活復帰しなければならず、在宅で生活するという事は、まず第一に「食べること」「栄養を摂ること」を考えなければなりません。それも、ただ「生きるためのだけの栄養」ではなく、「元気になるための食生活」でなければなりません。

だからこそ、この地域包括ケアシステムの構築が必要なのではないのでしょうか。

地域で活動している医師、歯科医師をはじめ、多職種、そして地域行政の方々、この実践交流会でそれぞれの立場から、それぞれの現場での実践から見えること、問題点を発表していただき、みんなで考えていきましょう。元気になるために!

## 7. これからの地域包括ケア

座長 大澤 誠 医療法人あづま会  
黒岩 尚文 全国小規模多機能型事業者連絡会 副理事長

### キーワード

- ✓ QOL
- ✓ 包括的
- ✓ 地域的
- ✓ 自治的
- ✓ 住民
- ✓ ボランティア
- ✓ 医療
- ✓ 介護
- ✓ 福祉
- ✓ 保健

### 趣旨

家族や地域の自治組織の変化を背景に、介護の社会化として介護保険制度はスタートしたわけだが、その変化した家族や地域の自治組織を再構築して、それらを機能させることが、「地域包括ケアシステム」には求められている。皆さまの地域では「地域包括ケアシステム」づくりへの動きは活発化しているであろうか？おそらく、本ネットワークに所属するかなりの医師会員のところでは、いわゆる「ミニ複合体」を形成し、包括的な取組みを地域で展開していることであろうが、医療は元来、フリーアクセスで、そのキャッチメントエリアはかなり広く、また、住民の参加の有無という点からも、その複合体は「地域包括ケアシステム」とは、似て非なるものである。ぜひ、皆さまの地域の、住民を巻き込んだ「地域包括ケアシステム」づくりに向けた動きを教えてください。

私たちの求めるQOLは個々に異なり、さらにそこに至る過程も、それぞれ異なっている。望むらくはその個々のニーズを満足させることの出来るシステムになることを祈っている。

## 8. 新しい試み

座長 福田 善晴 医療法人 大和会  
松村 伸一 特別養護老人ホーム はっぴー園 副理事長

### キーワード

- ✓ 発見
- ✓ ひらめき
- ✓ 経験談

### 趣旨

日本は現在、超高齢社会という、先行モデルがなく世界各国が経験したことのない社会へと向かい突き進んでいます。

私たちは既存のシステムから、地域ケアの充実と地域ネットワークの形成によって、地域包括ケアシステム構築という大きな目標に向かい突き進み始めました。

このカテゴリーでは、皆さんの現場において、既存の仕組みにとらわれず、可能性を信じ「やってみた」や、日々の業務にひらめきや工夫を加えたことによって、変化や改善を生んだ「取り組み」、またその「やってみた」「取り組み」の中で、見えてきた課題点といった発表を、ジャンルを問わず幅広く募集します。

成果の有無や、大小、成功、失敗は問いません。ふるってエントリーをお願いします。

その「新しい試み」は、これからの主流になる可能性を秘めています!!!

### 小項目

- ・在宅医療の充実に向けての実践・課題・工夫
- ・在宅での排泄ケアへの取り組み・介護
- ・医療施設等での新しい取り組み・課題・工夫
- ・高齢者社会を支える在宅医療の新しい形
- ・介護保険に頼らない高齢者の実践事例
- ・IT活用実践事例(介護ロボット・みまもりセンサー等)
- ・被災地内での支援活動等とおして見えてきた地域支援の新しい形

## 9. 薬と生活

座長 金井 秀樹 やまと調剤薬局  
沼田真由美 鹿児島県薬剤師会 常務理事

### キーワード

- ✓ 残薬
- ✓ 服薬支援と服薬介護
- ✓ 多剤併用や薬のQOL(食事、睡眠、排泄、運動、認知など)への影響

### 趣旨

薬は治療に欠かせない手段の一つですが、多くの薬が毒という面を併せ持っています。このことを含め処方や調剤は法的に医療と判断されます。しかし服薬という点では様々な解釈がされています。服薬、特に内服における支援は、医療なのか介護なのか、医療者と介護関係者がお互い迷走し責任の所在がなくなっているような場合も見受けられ、結果として残薬や過量服用、ポリファーマシー等々という問題が生じています。生活介護だけでなく服薬介護力をどうしていくのかという考え方も必要となっています。

また、薬が毒という面を持つことから、それを使う患者さんの生活(食事、睡眠、排泄、身体の動き、認知など)に副作用というかたちで様々な影響を及ぼします。

これらに対しどう情報共有し、対応していくのか・・・問題提起や実践的対策など多くの皆様からの発表をお待ちしております。

# 理事会報告

## 2015年度 第3回理事会

開催日時：2016年5月22日 9:00～11:50

開催場所：貸し会議室プラザ八重洲北口

出席理事：苛原実、黒岩卓夫、藤村淳子、畑恒土、石田一美、桑原由次、西嶋公子、吉永隆行、井村隆、長縄伸幸、福田善晴、森本益雄、岡崎和佳子、大石佳能子、金田弘子、村山善紀、吉井敦子、小倉和也、大川延也、沖倉紅児

オブザーバー参加：秋山由美子、楠元寛之

欠席理事：宮坂圭一、太田秀樹、新田國夫、永井康徳、草場鉄周、長純一、小山享、青木佳之、萩田均司、中嶋啓子、小林るつ子、金井秀樹、大澤誠、多湖光宗 (敬称略)

### ◎ 鹿児島大会の実践交流会に向けたメーリングリストの設定

東京事務局より

- ① 全カテゴリーの座長様、事務局間
- ② 個別カテゴリーの座長様、発表者(決定後)、事務局間のメーリングリストを設定したので、大会に向け事前の情報交換、交流に活用頂きたいとの報告があった。
- ③ 『演題募集要項』はまもなく発送する予定、例年通り参加の声掛けを理事においてはそれぞれの事業所にてお願いしたいとの報告があった。

### ◎ 今後の風の萌の発行について

次号よりカラー化を図る。ただし印刷部数は500部とし、WEB上での閲覧の利便性を向上させることによりコストを削減する。詳細についてはコアメンバーで決定する。

(配布等詳細については8Pに掲載させて頂きましたのでそちらもご参照ください)

### ◎ 鹿児島大会実行委員会より(楠元氏)

着々と準備が進んでいる旨の報告がされた。演題募集要項がまもなく発送されるので会員の皆様の演題をお待ちしております。

また、6月19日にはプレ大会を鹿児島にて開催いたします。今回は「Makeover Magic 2016 鹿児島」のタイトルにより高齢者によるファッションショーを行うとの報告がありました。

(この様子は速報として今号のP.8に掲載いたしました)



# 霧島プレ大会

日時：5月29日(月)

会場：国分シビックセンター

# プレ大会

## 報告

5月29日国分駅に近い「国分シビックセンター」にて『全国の集いin鹿児島2016 霧島プレ大会』が開催されました。

秋の全国大会の副会長をされている鶴木医院の加倉秀章院長による地元での開催のプレ大会も今回で3回目となり、本大会へ向けによい機運が高まってきました。

今回は『平成28年いきいきライフセミナー』というタイトルで、地元鹿児島市で本年4月に『ひらやま脳神経外科』を開院された平山貴久氏による『コウノメソッド実践医による認知症治療』の事例紹介がなされました。まさに「目からウロコ・・・」(加倉プレ大会長談)等にふ



挨拶される加倉プレ大会長

さわしい内容でした。

それは「先入観」や「思い込み」について丁寧な分析、事例紹介は10名以上にも及び、しかもそれぞれに薬の投与量など具体的数値も紹介されながらの紹介は、認知症の治療について改めて考え直す機会となりました。

ますます身近な問題として向き合うことを余儀なくされる『認知症』に対し、「知ることが何よりの治療」という事が、より実感できたシンポジウムでした。



平山先生



**認知症を取り巻く現状の理解と  
認知症治療の工夫について**  
2016年5月29日 国分シビックセンターにて  
ひらやま脳神経外科 平山貴久

**本日の内容**

- ①まずは認知症に気づくこと
- ②治療成功例
- ③糖質制限について



# 鹿児島プレ大会

日時：6月19日(日)  
会場：シルバーケアタウン  
アルテンハイム鹿児島

6月19日13時より、シルバーケアタウン アルテンハイム鹿児島(鹿児島市)にて在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 全国の集いin鹿児島 プレ大会が開催されました。冒頭で、千葉よりお越し頂いた 苛原会長が挨拶され、続いて大会長の吉井が挨拶しました。

今回のプレ大会は、人生100年、いつまでも輝きたい。元気であるシニアファッションショー「MAKEOVER MAGIC 2016 in 鹿児島」が開催されました。

モデルは全員60歳以上男女で最高齢が89歳でした。ご夫婦での参加もあり15名の方が音楽に合わせて笑顔でステージを歩きました。

今回、企画・メイクをして下さった松尾俊二さんは、神戸を中心に美容院をいくつも経営されており、本人の病気をきっかけにこの企画を実践されたそうです。今回ご縁あって、鹿児島にお招きしました。

観客は約130名集まり

会場から多くの歓声や拍手があがり、モデルの方々は、色鮮やかな髪やきらびやかなドレスに身を包みまるで別人のようでした。また、小さい頃からの「夢が叶った」と喜ばれる方もいらっしゃいました。

「今日ファッションショー、1日だけ輝くのではなく、今日を契機に人生100年輝いて欲しい」と大会長の想いがかもったプレ大会でした。

本大会の9月19日(月)も、13:20分より、600名収容の県民ホール「MAKEOVER MAGIC 2016 in 鹿児島」を開催致します。ぜひ、皆様輝くモデルの方々をご覧ください。



## 本号よりカラーで紙面を作成いたします。

今回は、発行が迫っていたために従来のスタイルをベースとした「暫定」カラー版です。

次号から「本番」カラーバージョンに向け

- 従来通りの縦組み、または横組み
- 従来通り表紙から記事をからめる or 表紙として独立させイメージコンセプトを確立させリニューアルを図る
- WEBでの閲覧も視野に入れたデザイン、編集を取り入れる
- 従来から検討中であった編集方針についても議論を継続し、よりよい紙面づくりを目指す

等の検討を重ねてまいります。

### 【配布・閲覧の変更】

経費の削減も目的としておりますので、配布・閲覧に関しましては

- 会員様には各1部から5部配布しておりましたが、今回から1部のみ
- 理事様には20部配布しておりましたが、今回からはメールによる配信とする
- ホームページへの掲載は発行と同時にアップし、検索、閲覧の利便性を計るとさせていただきます。

**会員の皆様におかれましてはご理解をお願いするとともに、ご意見等ありましたら東京事務局までお寄せください。**

## 活動予定

	第3回理事会	全国の集い in 鹿児島	NPO総会
場所	東京	鹿児島	鹿児島
日	平成28年8月28日	平成28年9月18日・19日	平成28年9月19日

## 東京事務局からのお願い

東京事務局では情報収集・発信事業の一環として介護等に関わる各種情報の分類・整理・発信を計画しております。

各々の診療所・施設で発行している会報・情報誌・広報誌等を可能であれば東京事務局へ送付して頂きたくお願いいたします。全国から寄せられた情報を基に、会員の皆様方へより質の高い情報発信ができるものと考えます。なお、その内容の取り扱いに関し個人情報等には十分な配慮を致します。

お送りいただく場合、印刷物、電子的データいずれでも構いません、下記住所及びメールアドレスをお願いいたします。購読料等の必要がある場合は事前にお知らせください。

**ご質問等ありましたら、電話、FAX 又はメールいずれでも結構です。**

〒112-0014 東京都文京区関口1-19-2 第2弥助ビル5F  
 株式会社チャンネル・コンピューター・プリント内  
 NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 東京事務局  
 TEL: 03-3235-7906 (平日 10:00 ~ 16:00)  
 FAX: 03-3235-4880  
 e-mail: tokyo-jimukyoku@home-care.ne.jp

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 全国の集い in 鹿児島 2016

**実践交流会演題募集中!**

**皆様のご参加が  
大会を盛りあげます!**

## 風の萌

2016年7月1日発行(第034号)

頒 価 : 1部50円 会員は無料

- ◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)  
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク  
TEL: 052-848-8800 FAX: 052-848-8801  
http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail: zenkokunet@home-care.ne.jp  
〒458-0007 愛知県名古屋市緑区籠山3-119 カーサフクシマC-32号
- ◆ 編集「風の萌」編集委員

### ∞∞∞編集後記∞∞∞

交流会の演題募集が始まりました。毎年多くの方が参加するこの企画は、個人的にも楽しみにしております。今年も大いに全国大会を盛り上げていきましょう。東京事務局としても、全力でサポートして行きますので、皆様も宜しくお願いします。

KI